

令和3年度 学校だより 10月号

9月30日発行
10月1日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 石田 薫

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子



学びの原動力

校長 石田 薫

秋冷の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

分散登校・端末持ち帰り等と大変な状況が続く中、臨機応変に対応していただき、ありがとうございます。4日以降は、一斉登校ができる見込みです。未だ、先の見えない状況ですが、できることを一つずつきちんとやっていきたいと思っております。

9月は、子ども達が農園の草取り、土づくり、畝づくり等をし、秋冬野菜を育てる準備をしました。今年度の収穫祭は、一堂に会しての取組みは見合わせ、収穫した野菜を鍋の具として使って給食室で調理していただきます。私は、一昨年の大根の種が残っていたので、苗を校庭に面した台の上で育てています。

教室を周っていると1年生が「校長先生、ハモグリバエです。」

『何のことかな。』と注意深く聞くと

私が育てている大根の苗の葉に模様があることを不思議に思い、調べたそうです。ノートには図と文字で虫の特徴と処置の仕方が4ページにわたって書かれていました。



ハモグリバエが葉に卵を産み、幼虫になって葉を食べた後が模様となっています。

「ピンセットで取れます。」「手袋をすれば、手でも取れます。」「難しかったら、葉の根元から切れれば大丈夫です。」「僕が治療をしましょうか。」

『治療してもらえますか。』

ハサミで葉を切ったり、模様のあたりを取ったりしながら熱心に作業していました。

「手術は終わりました。」

不覚にも『何だろう。この模様は。』で済ませてしまった自分を反省しました。

1人1台の端末を貸与し、GIGAスクール構想をスタートさせました。これからの時代を生きていく子ども達にとって、ICT活用は不可欠なものとなってきます。情報を短時間で取得・交換や遠隔でのコミュニケーション等大変便利なものではありません。しかし、学びの最初は、瑞々しい子ども達の感性から生まれる不思議や疑問でありたいと思っています。そして、それが原動力となり、不思議や疑問を問題にして、解決していく過程でICTを上手に活用できることが、より質の高い学びにつながっていくと考えており、ICTの有効性を理解しながらも依存することなく、道具の一つとして上手く使いこなせることを目指していきます。

10月11日から後期が始まります。前期のお子様の学習や学校での生活の様子を「あゆみ」を通して、ご家庭にお知らせします。是非プラスの方向で励ましていただき、更にお子様が進む機会になればと思っております。

今月もよろしくお願いいたします。